

依存問題PT

8月1日
本部会議室
出席委員等10人

9月末には具体策を

初会合で「スピード」確認

プロジェクトチーム（PT）発足の

の会議のため、お互いの自己紹介が行われた。すでに多くの「依存に関する資料」が委員に送られていたが、追加の資料が出され事務局から「業界として依存問題に取り組んできたが、社会情勢はなお一層の取り組みを求めている。日遊協は先頭に立って活動を強化するためにプロジェクトチームを組織した」とPT設立の趣旨が説明



初会合で具体的な討議を始めた依存問題PT

された。

チームを引っ張ることになった安藤博文リーダーは「私も皆さんも、依存問題に詳しいわけではありません。しかしのんびり構える状況ではないので、9月末までには対応を決め、具体的に着手した

警察庁、「依存問題」で要請

各団体で対策案作成を

次回活性化委員会で集約

警察庁保安課、大門雅弘課長補佐は8月6日、全日遊連本部で開かれた第2回遊技産業活性化委員会に出席、冒頭、パチンコ業界の依存症対策に関してとくに発言し、現在行われている対策の拡大方策あるいは新規の対策を、社会情勢も踏まえて抜本的に考えるよう要請した。

同補佐は対策を考える上で、「のめり込んだ人に対する対応」と「のめり込まない対策」の2つを示し、

いと思います。私なりの対策案のレジュメを作ってきましたので、これをたたき台に進めます」と挨拶した。

依存の実態はどうなのか、日本で行われている対策は、外国はどう対処しているのか、ファンへのホールの、メーカーの、それぞれ取り組みは何があるかなど全般的な討議が行われた。

その中から、▽従業員教育を含めた依存対策のガイドライン、▽セルフチェックなど啓発冊子、▽展示、放

とくにメーカー、販社は低射幸性の機械の検討など「のめり込まない対策」を考えてほしいこと、団体それぞれが対策を出してほしいことなどの「宿題」を出した。

活性化委員会としては、9月8日の第3回委員会に各団体が案を持ち寄ることを申し合わせた。さらに、依存問題に特化した業界横断的組織をつくり、長期的対策、当面の対策を並行して考えるべきとの意見が出された。

送、遊技機などの店内環境、▽業界の相談活動について、次回会議までに具体案にするために委員で分担した。

〈依存問題PT〉

リーダー＝安藤博文（ピーアークグループ）

委員＝横山真千（株マルハン）、富田和宏（株ABC）、栗山昌人（サシキョー株）、福田壮彦（東和産業株）、岸隆之（株ニラク）、河野真一郎（株アサヒディード）、村瀬位（株エムズ・ユー）

これに関連して、日遊協は依存問題プロジェクトチーム（PT）が検討している「依存対策ガイドラインの策定」など当面の対策案を紹介した。「依存対策ガイドライン」は教育的な側面からの施策で、①営業所での啓蒙啓発パンフレットの作成・配布 ②従業員向けの依存顧客対応マニュアル ③依存傾向の度合いを解析できる顧客向けチェックシートの配備——などの資料をつくり全店舗で実施する。また、会員カードに使用金額の上限を設定できる「自己申告プログラム協力店制度」なども検討の対象になっている。

遊技産業活性化委員会

2WG、9月発足へ「遊べる遊技機」「遊技産業PR」

パチンコ・パチスロ産業21世紀会の中に設置された遊技産業活性化委員会の第2回会合が8月6日、全日遊連本部で開かれ、委員7人と阿部恭久全日遊連理事長など構成6団体（全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商）の幹部らが出席した。

同委員会の中で具体的に活動する2つのワーキンググループ（WG）Ⅱ「遊べる遊技機検討」「遊技産業PR」（いずれも仮称）Ⅱのメン



WGのメンバー人選等を協議した遊技産業活性化委員会

「遊べる遊技機」「遊技産業PR」

バーの人選について協議した。その結果、8月中旬に各団体が出向メンバーを決め、9月上旬にも発足させることを申し合わせた。

各WGのメンバーは委員会の6構成団体及び21世紀会その他の団体から推薦された実務関係者15人程度となる。このうち「遊べる遊技機検討」WGは、ファンの多様なニーズに応えられる遊技機の検討と現行遊技機の問題点の改善遊べる遊技機を始めとする多様な遊技機の開発とホールへの導入促進等が協議事項となる。

また、「遊技産業PR」WGは、新たなファンの創出とすそ野を広げるキャンペーン、誤った情報によるネガティブイメージの払拭、業界の正しい姿のPRの検討等となっている。

「21世紀会フェスタ」提案

このほか、この日は日遊協から来年4月下旬に「パチンコ・パチスロフェスタ2015」を21世紀会の主催で東京・秋葉原で開催する提案があった。「フェスタ」は、

今春まで日遊協が主催してきたが、「多様なニーズに応えられる遊技機」の開発・促進・導入に向けて、業界一丸で社会にアピールするための提案となっている。

出席委員次の通り。（敬称略）

伊坂重憲（委員長）、金本正浩（以上、全日遊連）▽大久保正博（日遊協）▽榎本善紀（日工組）▽木原海俊（日電協）▽中村昌勇（全商協）▽伊豆正則（回胴遊商）

人材育成委員会

8月8日
本部会議室
出席委員等9人

「新規ユーザー獲得へのチャレンジ」をテーマに第8回マネジメント・カレッジ

第8回遊技産業マネジメント・カレッジのテーマを検討した。その結果、メインテーマを「新規ユーザー獲得へのチャレンジ」とし、サブテーマを「ターゲット2020年・20歳」とすることに決めた。東京五輪・パラリンピックがある2020年に向けてパチンコ業界の活性化を図るために、とくに若い遊技人口が増えている状態にすること、若い人が遊技したくなる

状況をつくること——などを議論したいとしている。

マネジメント・カレッジはパチンコ・パチスロ産業の次世代の人材養成のため、日遊協と人材育成委員会が主催する年1回の研修で、第8回は11月20、21日に東京・晴海グランドホテルで開催される。

講演では、20日に横浜ベイスターズや大リーグで活躍した佐々木主浩氏、21日にアイワ広告㈱社長、小山雅明氏がそれぞれ講師に予定されている。

店長・管理職能力開発講習

11月7日、広島で

日遊協は、11月に広島で行う店長・管理職能力開発講習の受講希望者を募集している。

●11月7日（金）

広島ⅡRCC文化センター

午前10時開始、午後5時半終了。受講料は日遊協会員1万7200円、会員以外2万2450円。希望者は申込用紙に記入して日遊協事務局に申し込む。申込用紙は日遊協ホームページ、または「講習」チラシのFAX申込書で取り寄せられる。定員に達すると締め切る。

パチスロ機で「認知症予防」

患者30人が楽しく挑む目押しの練習

「認知症予防」「軽度な認知症患者の認知症抑制」のためのパチスロ機を使った臨床実験が、8月13日から茨城県・筑波大学付属病院で社会貢献・環境対策委員会の協力で行われた。

臨床実験は同大学の朝田隆教授（医療医学系臨床医学域精神医学）による認知症の抑制効果を研究するための認知力アップデイケアで、通院している軽度認知症患者をグループ分けし、運動、ゲーム、歌など種々のプログラムを提供して行っている。今回、新しい実験プログラムとしてパチスロ機の目押し作業が導入された。

皆な初体験、9月に大会

8月13日、同病院の730病棟（デイケア室）に男女の患者30人が集合した。ほとんど全員がパチスロ初体験だ。同委員会から薛博夫委員長以下7人が駆け付けてプレイヤーの手ほどきをした。トレーニングは約1時間半。参加者はデイケアスタッフや委員会メンバーたちと回転するリールに目を凝らしな

目押しの練習

がら、タイミングを計ってバンバンと懸命に目押しするが、図柄はうまく揃わない。「惜しいッ」「あれーッ」「いいぞ、いいぞ」「難しいなあー」と、プレーヤーと周りの「応援団」から歓声、悲鳴、ため息がにぎやかに上がっていた。患者たちはこのあとも暇を見つけて練習を重ね、9月17、19日にグループごとの目押し大会が開かれる予定となっている。

効果を見て「他大学でも」

使われたパチスロ機は3機種5台。2012年の「パチンコ&パチスロフェスタ」に展示されたコンセプト機で、目押しの練習機としてつくられた。同委員会が日電協を通して遊技機メーカーから借り、7月中旬に病院に設置した。委員会メンバーが病院に向いてデイケアスタッフたちに遊び方をコーチし、今回の臨床実験に臨んだ。朝田教授からは、効果を見て他の大学のデイケアにもパチスロ機を貸し出してほしい旨の要請を受けている。

デイケアスタッフや委員会メンバーの手ほどきでパチスロを楽しむ軽度認知症の人たち



查の設問を参考に削除項目、変更項目、追加項目の各案が提出され、最終的な調整・検討が行われた。

例えばホール環境に関して、「ホールの設備で気に入っているもの、あってほしいもの（3つまで）」の設問が追加される。これには「禁煙・分煙エリア、分煙板、各台計数器、ロッカー、冷蔵ロッカー、アロマディフューザー（香り拡散機）、各台テレビ、データ公開機、空気清浄機、各台の携帯電話充電器、女性専用レストスペース、その他」の選択肢が示されている。

また、「パチンコ（パチスロ）」について、ホールの中以外では普段誰と話をするか」の設問も追加される。

回答で「よく話す」「たまに話す」「話さない」と分かれ、話す相手として「家族、友人・知人、会社関係、インターネット（掲示板、ブログ）、その他」など、話す内容として「台の演出、勝ち負け、ホール環境、新台、マスコミのパチンコ関係ニュース、業界情報、その他」などを答えてもらう。

広報調査委員会

8月19日
本部長 榎室
出席委員等8人

質問項目を最終調整

14ファンアンケート調査

「14ファンアンケート調査」(ホール来店客調査)について、前回調

東京都・関東支部役員会議

「9・9清掃」(九州支部)に協力へ



東京都・関東支部役員会議であいさつする西村支部長(立っている)

協力で九州全域を対象に清掃を展開、5トン強のゴミを回収した。

今年9月9日に「第2回」を実施するに当たり、九州全域だけでなく全国に運動を広げて行こうという趣旨で、先ず日遊協6支部に協力を依頼した。9月9日かその前後に地域の清掃をしたホール、事業所(メーカー、販社等)は活動個所、活動人員、回収ゴミの量などを、九州支部に直接メールまたはファックスで報告してほしいとされている。

東京都・関東支部役員会議が8月7日、本部会議室で開かれた。九州支部から「第2回9・9クリーンデイ清掃活動」への参加依頼があり、支部として協力することを申し合わせ、会員各社にその旨を発信した。

九州支部は地域貢献活動として毎月9日を「清掃の日」と決め、ホール・事務所周辺の清掃活動を実施しているが、9が重なる9月9日をとくに「9・9クリーンデイ清掃活動」として、昨年は九遊連、九遊商、回胴遊商九州支部の

東京都・関東支部総会(6月5日)、救命講習(6月26日、7月8日)、セキュリティ対策部会(7月28日)の各結果が報告された。10月30日の親睦チャリティゴルフコンペの内容が説明された。

主な出席者。(敬称略)

西村拓郎(支部長)、知念安光、後藤正人、白石良二、中村泰仁、吉川実(以上副支部長)、伊東慎吾(常務理事)、山本健二(事務局長)、江口憲治(総務課長)、松尾利光(支部事務所長)

不正対策室会議
今年最高の760件

不正対策室会議(室長・伊東慎吾)日遊協常務理事)は8月22日、日遊協本部会議室で委員ら10人が出席して開かれ、PSIO(不正対策情報機構)への入力状況の報告を行い、ゴト・不正情報について検討した。

2014年7月のPSIOオープンネット(業界及び一般ファンからの不正情報)は760件。業界から32件、一般ファンから713件の入力があり、今年に入って最も多い入力数になった。一般フ

アンの入力は、2013年7月と比べると115件(2013年7月598件)増えている。

貯玉補償基金理事会
1事故法人への適用承認

一般社団法人貯玉補償基金は8月6日、日遊協本部会議室で第57回理事会を開き、1議案を審議した。事故法人(長野県)への貯玉補償適用の可否について、事務局、当該センタ事業者の報告と貯玉補償適用申請審議委員会の検討に基づき審議し、事故法人への貯玉補償を適用することを承認した。

日遊協
ホームページ
更新情報

「日遊協」で検索!